

アジアゾウの新規導入について

ゾウの雄1頭と雌2頭を新たに当園へ迎えることになりました。

本日、インドを現地時間の早朝4時30分（日本時間8時00分）に出発した輸送機が予定通り16時30分に中部国際空港へ到着しました。3頭のゾウは、長旅にも関わらず、輸送中に異常も認められることもなく、終始落ち着いた様子です。

現在、空港での輸入手続きを行っており、終了した後、当園へ輸送します。

なお、到着後の積み下ろしについては、夜間の作業は危険なため、明日20日（木）の早朝から行う予定です。

◆来園したアジアゾウについて

○導入元 ※スリ・チャマラジェンドラ（マイソール）動物園（インド）

○導入個体3頭（マイソール動物園生れ）

・オス 10歳（2011年3月10日生れ）

・メス 10歳（2011年2月22日生れ）

・メス 5歳（2015年6月16日生れ）

※（正式名称はスリ・チャマラジェンドラ（マイソール）動物園。開園は1892年で、歴史のある動物園。64ヘクタールの敷地面積を誇り、人気の動物園。）

◆現在の当園飼育状況

雄1頭 ダーナ（50歳）

雌2頭 アーシャー（44歳）、チャメリー（29歳）

◆全国でのアジアゾウ飼育状況（令和2年度末現在）

32園館で82頭（雄21頭、雌61頭）が飼育されている。

◆取材について

※中部国際空港到着後は、作業の安全面に努め、ゾウの体調を最優先させて頂きますので取材はご遠慮下さい。

また、翌朝の搬入作業の際、輸送箱から出たゾウはゾウ舎（部屋）に入るためゾウの姿を撮影することは出来ませんので、取材はご遠慮下さい。（映像は職員が撮影した物を提供させていただきます）

<アジアゾウについて>

南～東南アジアの森林に生息。体重 3t～6t、体高2m～4m、頭胴長5～6m。食性は植物食。5～8 頭のメスとその子どもによる群れで行動。オスは成長すると群れを放れて単独で行動する。メスの性周期はおよそ 4 か月周期。妊娠期間は 660日程度。産仔数は1 頭。19世紀以降、象牙の利用による乱獲や、人の生活圏の拡大による生息地の減少により生息数を減らし続け、近年の生息数は3.5～5 万頭と推定されている。IUCNレッドリストでEN(絶滅危惧ⅠB類)に位置付けられ、ワシントン条約で付属書Ⅰに掲載されている希少種である。

問合先 総合動植物公園 動植物園

専門員 吉川雅己・獣医師 木谷良平(電話 41-2186)